KYOMACHIYA-SUITE RIKYU

笑門来福 ～お客様と地域をつないで、みんなが笑顔になる京町家の宿～

西澤 徹生さん

このコーナーでは、商品の売上の一部が京町家まちづくりファンドへの寄附となる寄附付き商品を取り扱っていただいている企業の方の、京町家や京都のまちづくりに対する思いをご紹介します。
今回は、京町家の一棟貸しで宿泊施設を営まれる KYOMACHIYA-SUITE RIKYU（京町家スイート利休）宿主の西澤徹生さんにお話をうかがいました。

京町家まちづくりファンドにご協力いただいた理由は？

私自身、10 歳頃まで京町家に住んでおり、京町家に親しみを持っていました。現在は京町家の一棟貸しの宿泊施設を営み、京町家のおかげで商売ができ、「京町家」というブランドを使わせていただいていると考えていたので、何らかの形で恩返ししたいと考えていました。

まちセンの担当者さんから寄附付き商品のご提案をいただいて、宿泊していただくだけで寄附につながり、お客様も京町家の保全・再生に貢献する仕組みがあると知り、即決しました。

外観

宿泊施設を始められたきっかけは？

前職で旅行代理店に勤めていたことから、観光の視点で地域に利益が波及する方法を考えていました。祖母の住んでいた京町家が空き家になっていたので、空き家を活用することで京町家の再生による地域貢献のモデルになれればと思い、当宿を開業いたしました。

営業するうえで心掛けていることは？

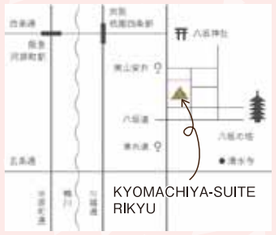
お客様がチェックインされる際は必ず私がお出迎えし、お客様と直接お話をする機会を設けています。宿ではお食事を提供していませんので、近隣のお店をご案内しています。また、アメニティなどもほぼ京都製のものを使用しています。お客様に、地元の魅力や京都の逸品を知っていただき、実際に購入したり体験したりすることで地域の潤いにつながれば、お客様だけでなく、地域の方にも喜んでいただけるのではないかと考えています。

今後の展開について

現在、客層は約7割が外国からのお客様で、なかには、とてもセレブなお客様もいらっしゃいます。そのような方々に、当宿を選んでいただいた理由をうかがうと、一様に「京町家って Cool なんだ！」という答えが返ってきます。

外国の方のほうが、歴史ある建物が持つ魅力というものに感度が高いのかもしれません。

また、そういった方は、発信力や影響力が非常に大きいと思います。世界中に京町家が発信されるので、世界から憧れられるような京町家の魅力を知っていただくとともに、少しでも多くの人に、京町家まちづくりファンドの取組や京町家の置かれている現状を知っていただけたらと思っています。



所在地：〒605-0823 京都市東山区下弁天町 61-4　TEL：075-746-2942　HP：http://kyomachiya-suite-rikyu.com

平成28年度賛助会員募集中！
入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

平成28年度賛助団体

「京くらし」ネットワーク	ぐるっとVIEW	アルパック 株式会社地域計画建築研究所	JR ISETAN	相続相談センター
ゼロホーム	フラットエージェンシー	平安建材株式会社	京都駅ビル	京町家居住支援者会議
公益社団法人 京都市観光協会	be-kyoto	都ハウジング	大阪ガス	京都府不動産コンサルティング協会
RITSUMEIKAN	京町家をお探しします。株式会社 八清（ハチセ）	LATSS FORUM	株式会社アーキスタイル	

※平成28年11月末現在

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター
〒 600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83 番地の 1
（河原町五条下る東側）　ひと・まち交流館 京都 地下 1 階
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704
E-mail：machi.info@hitomachi-kyoto.jp
H P：http://kyoto-machisen.jp
Facebook　HP
京都市景観・まちづくりセンター

この印刷物が不要になれば「紙がみ」として古紙回収へ！

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

ニュースレター　京まち工房　第 77 号　2016 年 12 月　編集・発行　公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

京まち工房 77

パートナーシップで進めるまちづくり

特集
ものづくり企業が活用する京町家
株式会社ツー・ナイン・ジャパン社屋
「智慧夢工房」
(P2-3)

京町家再生事例 4
「京のまちかど」案内ボランティアさん紹介
まちセンからのお知らせ 5
地域まちづくり・京町家の専門家紹介 6
私と京都／スタッフのつぶやき 7

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

特集
ものづくり企業が
活用する京町家

株式会社ツー・ナイン・ジャパン社屋

「智慧夢工房」

今回は、京町家を保全し、社屋として再生した株式会社ツー・ナイン・ジャパン（以下ツー・ナイン）のご紹介です。ツー・ナインは「ものづくり都市・京都」で、数々の特許技術を開発し、錠剤製造用金型（以下、杵・臼）の製作、販売を行うトップ企業です。ツー・ナインが研究開発拠点（以下、R&D センター）として取得した土地に建っていたのは大型の京町家。誰もが取り壊すものと考えていたなかで一転、京町家を保全し、「智慧夢工房」と名付け、美しく蘇らせました。ものづくり企業が京町家を再生するまでの道筋、京町家への想いをうかがいました。

株式会社ツー・ナイン・ジャパン 代表取締役 二九規長氏（左）、企画課長 伊藤圭一氏（右）。床の間にかけられた軸には、京町家に名づけられた「智慧夢工房」の文字が記されている

改修設計を担当した古賀芳智氏。耐震壁が設けられた押入れの前にて

京町家再生について

話し手

伊藤 圭一氏
株式会社
ツー・ナイン・ジャパン
企画課長

古賀 芳智氏
株式会社
KOGA 建築設計室
代表取締役

京町家として保全・再生するまで（伊藤氏）

杵・臼の製作、販売を行う企業であるツー・ナインが京町家を所有することになったきっかけは、R&D センター用の土地を取得したことです（29［ツー・ナイン］番地でした）。取得した土地に大型の京町家が建っていました。R&D センターを建てるために壊そうとした際に、京都市から「貴重な建物なので残していただけないか」と言われ、保全・改修を検討することとなりました。一方で、当社期待の新製品の販売のためには製造場所が必要なので、その建設地として町家の北側の土地を新たに取得し工場を建設するなど、保存・改修を完了するまで1年半かかりました。その間、さまざまな方面から助言を受け、社長（代表取締役 二九規長氏）の決断の下、徐々に計画が定まっていきました。

京町家カルテ※1 作成などの建物調査をきっかけに、調査員であった古賀さんに改修の設計をお願いすることとなりました。

荒れていた庭も、社長が個人的に持っていた「人のつながり」を伝って職人さんにお願いし、庭石や灯篭はもとからあるものを活かしつつ、整備することとなりました（まちセン注：かなり傷みの激しかった土蔵についても、改修され保存されています）。

京町家で京都のものづくりをアピール（伊藤氏）

当初は、こんなにお金がかかる、大きくて古い京町家をどうやって使うのかと、従業員の間にも疑問の声がありましたが、改修工事後の京町家の姿を見ると「ああ、よい建物だな」と思い、社長の想いを理解することができました。

京町家を社屋とすることで、日本の文化を継承し、社会に貢献する企業の姿勢を示すことができると考えています。お客様をおもてなしすることを通じてそれらをアピールできるのではないかと思います。ゆくゆくは海外のお客様もお招きしたいと思っています。海外展開も視野に入れグローバルニッチトップを目指す企業が、京都らしいものづくりについて知っていただくための舞台として、この建物を活用したいと思います。

建物を改修するにあたって（古賀氏）

この建物は、大正４年（1915）建築の２列３室型のツシ２階建※2 の形式を持つ京町家です。築 100 年を超えていますが、建物は極めてよい状態だったので、改修設計をするにあたっては、もとの建物を活かすことを第一に考えました。唯一大きく変えたのは、トオリニワ※3 です。薪ストーブを置きたいという社長の要望を受け、雰囲気をあわせるために床をタイル張りにしました。その他は不陸※4 を直し、若干の耐震補強を行った程度です。外観については、虫籠窓の額縁を含めて浅葱漆喰であっさりと仕上げたので、以前より洗練された雰囲気になりました。

この建物は、通常の京町家に比べて全体的に骨太で、転用材※5 が少ないという特徴があります。垂木には通常は細い丸太が用いられることが多いのですが、この建物には角材が用いられています。また、地業※6 がしっかりなされていたのも建物状態のよさに繋がっていると思います。

押入れのなかと２階（ツシ）に耐震壁を設けることで耐震補強を行いましたが、いずれも通常は目に付かない場所なので、しつらえや空間構成には影響していません。

これから寒い冬を迎え暖房が必要になります。京町家は機密性が高い建物とはいえないので予想がつきませんが、トオリニワの薪ストーブで建物全体を暖めながらエアコンを補助的に使うことを想定しています。

日々の管理で気をつけていただきたい点は、トイレに続く屋外に面した廊下の拭き掃除を定期的に行っていただきたいということです。この廊下は、建具が入っていない、いわゆる「濡れ縁」ですから、ホコリをかぶったり、雨のしぶきがかかったりするためです。

これからの京町家での日々（伊藤氏）

ツー・ナインは、打錠（錠剤を成型すること）用杵・臼を作っている企業です。一方で、日本文化の継承、産学連携、地球環境への貢献にも力を入れている点が他社とは異なる特徴です。その姿勢が今回の京町家の保全・再生の取組に反映されていると思います。

この伝統的な木造建築物を今後もずっと大切に保存していきたいと思います。

※1 京町家カルテ……（公財）京都市景観・まちづくりセンターで作成する、京町家の文化的価値や建物状態をまとめた文書のこと。　※2 ツシ２階建……２階の階高が１階に比べて低い京町家のこと。２階部分は「ツシ」と呼ばれ、物置などとすることが多かった。明治後期までの建物に多く見られる。窓は虫籠窓であることが多い。　※3 トオリニワ……町家の表から裏までを貫く土間空間。炊事場などの水回りが配されていることが多い。※4 不陸……部材や表面が水平ではないこと。※5 転用材……他の建物で使われていた部材のこと。ホゾ穴などがあるため、一般的には強度が劣る。　※6 地業……基礎構造のうち地盤に対して行う工事のこと。

Before

After

「 外観 」

「 トオリニワ 」

「 室内の様子 」

「 庭の様子 」

平成 26 年度 京町家まちづくりファンド改修助成事業

京町家で職住を共にすること

谷村邸／つづれ織工房 おりこと　平成 26 年度 歴史的風致形成建造物 指定

今回は、京都、西陣に残る京町家を改修され、職住一体の空間として活用されている谷村邸のご紹介です。出身が京都ではないご夫婦が、なぜ西陣の京町家での暮らしを選ばれたのか。今後、京町家での暮らしを通じて何をお伝えになりたいのか。京町家暮らしの感想も含めて、お話をうかがいました。

語り手

谷村 寧昭氏（ご主人）

谷村 紗恵子氏（奥様）

改修前

改修後

「京町家」を選んだきっかけ

ご主人：これまでマンション暮らしをしていましたが、一戸建てにも興味がありました。勤務先の滋賀県が通勤圏内であることを条件として、妻の仕事や希望に配慮しながら住居探しを開始しました。

奥様：京都・西陣の伝統工芸の一つである「爪掻きつづれ織」の仕事をしていたことや、アンティークなものに興味があったため、京都市内の伝統的な建物を見て回りました。そのなかで、偶然、この西陣の京町家に出合いました。

西陣には奥ゆかしい町並みや、伝統工芸の仕事に必要な道具、工房が残っており、職人さんと触れ合える機会もあることが分かりました。その雰囲気や環境に惹かれました。

また、この京町家は織屋建てと呼ばれ、建物の奥に広い土間空間があることも魅力的でした。1 階を工房兼ギャラリーとし、2 階を居住空間とすることで、職住一体としての活用ができるのではないかと考え、3 年前に購入しました。

ギャラリー（改修中）

改修時の苦労や思い出

ご主人：購入後、柱・梁や屋根などの工事を除いて、内装はできるだけ自分たちの手で改修しており、もう少しで完成予定です。時間はかかりましたが、その分、伝統的な建物を本来の構法で改修することの楽しさや難しさを実感できました。床下の基礎など普段見えない所も確認することができ、今後のメンテナンスにおいて、自分たちでできる工事と、専門家に依頼すべき工事の判別もつくようになりました。

京町家まちづくりファンドや耐震改修、歴史的風致形成建造物などさまざまな助成・補助制度を利用しましたが、申請窓口が分かれていることや、工事着手のタイミングを合わせることには多少苦労しました。

奥様：地震と寒さへの対策が課題でしたが、建物全体の傾き直しや傷んだ部材の取り替え、屋根への断熱材の設置により、京町家の空間のよさを活かしたまま、耐震性と断熱性を向上させることができました。

改修の進め方については、夫婦で考えが異なり議論もしましたが、振り返ってみれば、楽しい思い出です。

京町家で暮らし始めた感想

奥様：8月から暮らし始めましたが、夏は涼しく特に不満はありません。現代的な戸建て住宅で育ったこともあり、これから迎える冬の寒さには不安もありますが、浴室やトイレへの廊下も屋内化し、暖房とストーブも設置しており、隙間を塞げば十分耐えられると思います。

ご主人：「おくどさん」や井戸も残しており、将来的には蘇らせて活用したいと考えています。

地域活動としては、早速、西陣学区の運動会や町内の地蔵盆に参加しましたが、地域の方がとても親切にしてくださり、自然に溶け込むことができました。

京町家を継承していくことへの思い

ご主人：京町家は、代々の親族だけではなく、京都や伝統が好きな人にも継承していただくことで、管理に対する所有者の意識を高く保つことができ、このまちの景観を維持できるのではないかと考えています。特に、織屋建ての京町家には水を使え、土をこね、重たいものを置ける広い土間空間があります。そこに魅力を感じる職人やアーティストも多いと思います。

奥様：現在、つづれ織の工房※として、見学者を受け入れることもあります。今後、海外の人や若手の職人などさまざまな方々に、京町家や伝統工芸品の素晴らしさを伝えていきたいと考えています。

工房

※つづれ織工房 おりこと……オリジナル・オーダーデザインの小物を生産・販売　http://oricoto.com/

展示施設

「京のまちかど」案内ボランティアさん紹介

Vol.10

冨名腰（ふなこし） 隆 さん

このコーナーでは、景観・まちづくりセンター1階にある展示施設「京のまちかど」で、展示案内をされているボランティアさんをインタビューにより紹介します。
今回は、当センター地下1階に展示している、国宝・上杉本洛中洛外図屏風の実物大複製パネルを使ったギャラリートークの仕掛け人でもある冨名腰隆さんにお話をうかがいました。

洛中洛外図屏風ギャラリートークの様子

Q 冨名腰さんはどちらのご出身ですか？

大阪です。学生時代から京都に住み始め、トータルで 30 年を超えます。

Q ギャラリートークを始めたきっかけは？

洛中洛外図屏風ギャラリートークは平成 27 年 2 月から始めました。もともと歴史探訪サークルを主宰するなどの歴史好きですが、この屏風をきっかけに室町時代への興味が高まりました。そこで、鑑賞のポイントを押さえつつ、皆さんと一緒に絵を楽しむギャラリートークをしてはどうかと考えたのが始まりです。屏風にいきいきと描かれた人々の様子や年中行事などについて、その時代背景とあわせて考えながら、来場された方と一緒に楽しんでいます。

Q 展示案内を通してどんなことを伝えたいですか？

単に京都の歴史の解説にとどまらず、それぞれの時代で実際に暮らしていた人々の生活があったということを、展示資料を通して感じていただくことを大切にしています。

Q 一味違う京都の楽しみかたを教えてください

「京都一周トレイル」に挑戦してみるのはいかがでしょうか。例えば、伏見稲荷に始まって清水寺、銀閣寺、比叡山へとつながる「京都一周トレイル 東山コース」は、初心者の方も気軽に歩けるのでおすすめです。途中で南禅寺に立ち寄るなど、寄り道の楽しみもあるのが魅力ですね。ちなみに、上杉本洛中洛外図屏風の右隻（うせき）※には、このトレイルコースの各ポイントとなる名所が多く描かれていますよ。

※屏風一双の向かって右側の屏風のこと。

まちセンからのお知らせ

京町家等継承ネット 京町家・空き家相談会のご案内

ご所有またはお住まいの京町家や空き家の改修・相続・活用などについて、京町家等継承ネットの各分野の相談員がご相談をお受けします。電話をおかけいただくか、京町家・空き家相談会にご来場ください。

専門相談：要電話予約

事前にお電話にてご相談内容をおうかがいし、当日は相談内容に応じた専門家が直接ご相談をお受けします。

時　間 ①午前 10 時～午前 11 時
②午前 11 時 30 分～午後 0 時 30 分
③午後 2 時～午後 3 時
（各回 3 組）

一般相談：予約不要

各種公的制度のご案内など、一般的なご質問にお答えします。

時　間 午前 10 時～午後 3 時

京町家・空き家相談会 in しまだいギャラリー

開催日 平成 29 年 1 月 14 日（土）、15 日（日）
会　場 しまだいギャラリー
（京都市中京区御池通東洞院西北角）

京町家・空き家相談会 in 京都リサーチパーク

開催日 平成 29 年 3 月 4 日（土）
会　場 京都リサーチパーク（KRP）西地区 4 号館 2 階
ルーム 2（京都市下京区中堂寺粟田町 93 番地）

専門相談ご予約・お問い合わせ先

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター
（京町家等継承ネット事務局）　TEL：075-354-8701

第7回 地域まちづくり・京町家の専門家紹介

古い家のお医者さんを目指して！

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い思いをもって京都のまちに関わっておられる専門家の方々をご紹介します！

今回はこの方！

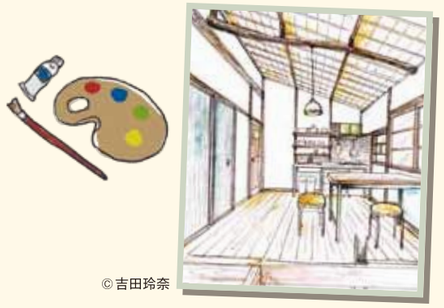
©itonowa

吉田 玲奈氏

（京都市文化財マネージャー、京都建築専門学校非常勤講師）

京町家など、主に木造家屋の改修設計に携わる傍ら、京都銭湯部や itonowa プロジェクト※1 などの幅広い活動を実践しておられます。当財団では「京町家専門相談員」として、京町家カルテ※2 作成などにご協力いただいています。

学生達と一緒に、改修設計をしたお宅のメンテナンスや掃除のお手伝い／©吉田玲奈



©吉田玲奈

町家を改修する建築士を志したきっかけは？

高校では美術を専攻しましたが、古い建築の絵ばかり描いていました。同級生が美大進学を目指す中、私は建築そのものを知りたいと思い、実習が多くて、幅広い分野について学べる京都建築専門学校への進学を決めました。楽しかった実習や、女性の先輩が携わっていた町家の改修現場をお手伝いした時、多くの職人さんの手によって、ぼろぼろの町家がよみがえる過程を目の当たりにした経験が、この仕事を始めたきっかけです。

どんな建築士を目指していますか？

傷みを診断し、改修という手術を経て、おめかしをした家を住まい手にお返しする“古い家のお医者さん”でありたいと考えています。その中でも、近所の方々に気軽に相談してもらえる町医者を目指しています。また、改修の機会を生み出し、職人さんが腕を振るう場を作り出す役目も果たしたいと思っています。

京町家カルテ作成の楽しさ、難しさは？

“カルテ”という名前がまさに、古い家のお医者さんを目指す私にぴったりの事業ですね。町家は個人邸が多く、見学の機会が少ないので、調査で数多くの町家にうかがい、様々な傷みの症状や意匠の違い、地域による特徴、活用状況などを学べるのがうれしいです。ただ、住まい手にご自宅の価値を再認識してもらえるようなレポートを作れるかは、調査員の町家に対する専門知識の量に左右されるので、責任は重いと実感しています。

改修設計以外のさまざまな活動について教えてください！

町家の改修現場実習の時、若者が現場にいるのが珍しいのか、よく近所の方々に話しかけられました。地域のことや改修中の町家にまつわるお話をうかがい、よみがえった町家を喜んでくださる様子を見ているうちに、自然と、建築と地域は切り離せないという考え方が身につきました。学校近くの銭湯の廃業を目にした時の寂しさから、京都銭湯部を結成し、銭湯マップの作成や、番台のお手伝い、銭湯めぐりのツアーガイドを行うなど、銭湯文化を伝えることもライフワークの一つです。また、改修設計を頼まれた itonowa プロジェクトでは、背中合わせの2軒の町家を、ショップや文化交流スペースが集まる施設に蘇（よみがえ）らせました。プロジェクトメンバー全員で、地域のにぎわいの場づくりを目指してがんばっています。

最近うれしかったのは、ご近所のおばあちゃんが夜分にふらっと私の家に訪ねてきて、電球の交換を頼まれたことです。どんな些細な暮らしのことでも気軽に相談していただける町医者として、地域の方々に認識してもらえることが今の目標です。

itonowa 1周年記念イベントの様子／©itonowa

※1 http://itonowa.jp/（平成 26 年度 京都市「空き家活用×まちづくり」モデル・プロジェクト選定）
※2（公財）京都市景観・まちづくりセンターで作成する、京町家の文化的価値や建物状態をまとめた文書

京町家カルテ　検索

私と京都

京都府立大学 大学院生命環境科学研究科
環境科学専攻 教授
大場 修

京町家カルテ

「京町家」。誰がいつから言い始めたのか。古い言葉ではないはずです。「京童（わらべ）」などに倣（なら）ったネーミングでしょうか。「京野菜」に「京仏壇」。「京」を冠した多くの産品のなかでも、京町家はブランドネームとして今日広く浸透しています。

「まちセン」には「京町家カルテ」という事業があります。京都市独自の、注目すべき取組です。私は「京町家カルテ委員会」の長として、カルテの発案者、ならびにカルテ作成に尽力されているスタッフに多大の敬意を表したいと思います。

カルテを作成するには、「京町家カルテ調査員」の大工さんと建築士さんが建物を丁寧に調査します。プロセスは極めて学術的です。建物の履歴や特徴、構造の状況から、カルテは市井の「町家」の文化的価値、すなわち京町家としての価値を明らかにします。

カルテを受け取った京町家は、今や320軒を超えました。

しかし、カルテの発行は驚きと発見の連続です。委員会に持ち込まれる新型の町家。通り土間を持たない町家もその一例です。大正や昭和初期に建てられたもので、多くは市街地の周辺部に分布しています。

これらも京町家と呼んでよいのか、どうか。これまで知られていない町家と出合うたび、「京町家とは何か？」と自問することになります。

20世紀前半の京都。区画整理など市街地開発の下、伝統的な形式を脱した新手の町家が大量に建てられました。一見して異種の「近代町家」。でも、これらも実は京町家の伝統線上に位置することがわかってきました。調査の積み重ねの結果です。

京町家は、その存在が確認できる平安後期以来、1,000年の歴史があります。京町家ほどに、今日に至る長い歴史のなかで原型を保持し、住み続けられた類例は世界のなかで見当たりません。その意味で、京町家は世界史的な価値を持ちます。世界遺産に登録されてしかるべき建築群です。

その意味で京町家カルテの取組は、京都の町家が千年の歴史を背負う存在であることの確認作業、だといえます。と同時に、京町家のイメージを広げ、その定義の更新に迫られる現場でもあります。

カルテは京町家の継承に資する事業です。しかし、私にとっては、日々京町家と向き合う「研究」の最前線でもあるのです。カルテの蓄積は、京町家の歴史をより豊かにし、その価値を高めるための資源たり得ると確信しています。

スタッフのつぶやき

スタッフA.H.

バレエが好きで、映像でよく見ます。公演ももちろん素敵ですが、ひそかに好きなのは、バレエ団がインターネットに時折上げる、日常の練習風景の動画です。鏡が張られている大きなスタジオに大勢のダンサーが集まって、指導者の指示のもと身体を動かしているレッスンの様子を見ていると、どんなに有名なダンサーも基礎の動きを丁寧におさらいしていることがよくわかります。実力のヒエラルキーで構成されているバレエ団において、個々の実力や技術を支えるのは、平場で行われる日々の基礎の積み上げなのだと改めて感じます。

京都の美しさを支えるのも、長い歴史と市井の人々の日々の生活の積み重ねです。まちセンの仕事を通じて、京都の表面の華やかさだけではなく、その基礎となるものを見ることができるのは、貴重な経験だと思います。